

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム なの花 (南棟)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100394		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホーム なの花 (南棟)		
所在地	〒020-0861 盛岡市仙北二丁目4-2		
自己評価作成日	令和6年8月27日	評価結果市町村受理日	令和7年4月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

美味しい食事と健康な身体、楽しみのある生活は職員全員のモットーであり栄養バランスよく野菜と魚をふんだんに使った料理は利用者様方にも評判がよく食事を楽しみにされている。仙北公園は毎日の散歩コースとなっており整備された花壇や樹木から季節の変化を感じ散歩は楽しみの一つになっている。筋力低下予防の音楽体操は日課となっており成果を感じられる。JR仙北町駅前に位置し交通が便利である。仙北活動センター、産直、商店街など昔ながらの人情が感じられ地域のお祭り見学や資源回収の協力など顔が見える交流をしながら地域に支えられ求められるグループホームをめざしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvu

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JRの駅とバス通りに隣接し、交通の便が良い。近くには公園や産直、仙北活動センター、商店街があり、特に公園は利用者が散歩するのに程よい距離に位置している。平屋で天井が高く、二つのユニットは食堂兼ホールでつながっており、自由に行き来ができ、開放感がある構造となっている。敷地には花壇のほか、畑を作り、トマトやナス、スイカなどを育てて収穫している。職員は、利用者のそれまでの暮らし方を尊重し、皆一律の活動ではなく、各々が自分に合った時間を過ごせるよう個別にレクリエーションや余暇活動を提供している。本人が何もしたくないという気持ちも尊重している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号		
訪問調査日	令和6年12月19日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちはいつもあなたのそばにいてこころの声をきいています」の部分は、おやつ後からの時間を利用者様と一緒に過ごしコミュニケーションを取っている。 「地域の人々や自然とふれあい」の部分は、気候のいい日には玄関先のベンチで外気浴をしたり、行事でドライブなど企画し、感染症に配慮しながら実践している。	職員一人ひとりが理念に基づいて一年の目標を設定している。自分の思いを言葉に表すことが難しい利用者もいることから、ゆったり時間が取れるおやつの後や、外のベンチで休んでいる時などにコミュニケーションを取ることに努めている。また、利用者が話す本音や希望については記録し、職員間で共有している。職員各自の目標は管理者に提出しており、管理者は年度末に設定した目標に対する自己評価を職員から確認する予定である。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	仙北二丁目の町内会に加入し、自治会長、町内会長連合会会長、民生委員にも運営推進会議委員になって頂き、地域の情報を得ている。	運営推進会議において、地域住民の委員から地域の行事について案内をいただくが、早朝のため職員体制の都合上参加が難しい。今年は、イーハトーブ地域包括支援センターから認知症サポーターキャラバンのマスコット作りの提案を受け、利用者と共に作成し地域の文化祭で展示された。作成した利用者が展示場に出向き、地域との交流が感じられる機会を得ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は感染症対策で中止しているが、地域の方々の趣味の発表の場を提供し認知症の理解を深めて頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回会議を設け、施設の取り組みや現状を報告している。現在はスローショッピングの参加を検討している。	委員は、町内会連合会会長、自治会長、民生委員、地域包括支援センター、家族代表者で構成され、利用者も出席することもある。会議では、利用者の状況やサービスの実際に加え、身体拘束廃止・虐待防止委員会についても報告している。委員から介護に関する質問が出され、地域で要介護者をどう支えることができるかという話し合いに発展したこともある。	身体拘束廃止・虐待防止委員の報告は研修の成果など資料が詳細にまとめられており、運営推進委員へ積極的な情報の提供がなされています。今後は、ヒヤリハットの報告をグラフに表した資料などを提示することで、事業所の取り組みがより伝わり理解が深まることが期待されます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度について不明な点は市役所高齢者福祉課、生活福祉第一・二課へ電話で相談指導を受けている。また介護保険課からのメールで制度の変更や感染症対策など情報を得ている。	生活保護を受給している方については、半年に一度市の生活福祉第二課の担当ケースワーカーが来所している。介護保険制度の変更に關することは、市の介護保険課と主にメールで問い合わせを行ない情報を得、また的確な指導をいただくなど、円滑な関係を築いている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム なの花 (南棟)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	協栄テックス株式会社福祉事業部の身体拘束廃止マニュアルを作成。隔月に身体拘束廃止委員会を開催。廃止に関する研修を全職員が受講し運営推進会議で報告している。現在身体拘束対象者はいない。 玄関の施錠に関しては、以前無断外出者が出た際に警察より施錠の指示を受けている。	隔月に、身体拘束廃止委員会と虐待防止委員会を併催している。管理者と計画作成担当者、職員が出席している。本社福祉事業部がWEBを活用して講義を配信しており、権利擁護や基本的人権など虐待防止に向けた研修を全員が受講している。現在、身体拘束はないが、普段の言葉がけや接し方について振り返り、話し合いをもつように努めている。警察の指導により24時間玄関は施錠しているが、外へ出たい素振りを見せる利用者には職員と一緒に外出するよう心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会と合わせて虐待防止委員会を開催。研修を全職員が受講し運営推進会議で報告している。また、職員同士で言葉使いや対応など気になった部分はその都度指摘したり、申し送りして周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修(WEB研修)を全職員が受講。 必要な時は市役所介護高齢福祉課へ相談・指導を頂いている。特に生活保護の方については生活福祉第一・二課へ相談報告し連携を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解除は入居前に重要事項説明により丁寧に説明し、疑問不安などを解消していただいたうえで契約を行っている。改定時は書面で定時、問い合わせに関しては随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	感染症対策でご家族の声を聞く機会が少なくなっているが、半年ごとのケアプランの評価・更新の際に利用者様の状況と一緒に写真や運営推進会議議事録を郵送し、ご家族様よりお手紙で要望を頂いている。 状況の変化などはその都度直接お電話でご報告している。	現在は感染症対策のため、家族と直接コミュニケーションを取る機会が限られている。半年ごとに行うケアプランの更新の際に、利用者の状況について一言添えて資料とともに送付している。ケアプランの返送とともに家族からお礼の言葉が書かれている時もあるが、運営に関する意見等はみられない。他に、連絡が必要な場合は主に管理者が電話で連絡をしている。	以前は利用者ごとに担当の職員を定めていたが、現在は担当を置いていないため、家族への連絡は管理者や計画作成担当者に限られています。今後は、職員も一言メッセージを添えるなど、家族と職員のコミュニケーションの在り方を工夫し、家族が意見を表しやすいような取り組みを期待します。

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム なの花 (南棟)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的な疑問や意見は管理者が受けている。管理者は本社に報告し、結果は申し送りや書面にして提示し職員全体で共有している。 年度末には自己評価を実施。契約更新時には管理者が職員一人ひとりの希望を把握し本社へ報告している。	日常の業務に関わる提案については、申し送りノートに各自が記載し共有している。また意見や疑問については、管理者に直接話しができる環境にある。管理者は、受け付けた意見や要望について本社に報告し、結果は書面等で示している。現在、運営に関わる委員会を八つ立ち上げているが、勤務体制への要望はあるものの運営そのものに関する提案はみられない。委員会が多すぎると感じており、集約して活動しやすい委員会に編成しなおすことも検討したいと考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役割分担表を作成し、職員それぞれが行事や物品管理など各委員会に所属することによりやりがいにつながるように努めている。 無資格者には認知症基礎研修を受講してもらうなど、資格へのバックアップは積極的に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格修得研修はシフトを調整するなど参加しやすい環境を整えている。必要な資格は職員の能力を把握し個々に声掛けをしている。 一般の研修会の情報を回覧で提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の勉強会や盛岡保健福祉部介護保険課、地域包括支援センター主催の勉強会に可能であれば参加し、勉強・交流を図りサービスの質の向上に努めている。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みの時点で取り巻く環境や心の状態をお聞きし事前に見学をして頂き、不安・疑問の解消に努めている。入居後は言動・行動・想いを職員間で共有しご家族と連携を取り安心して頂けるよう統一したケアを提供している。		
----	--	--	--	--	--

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム なの花 (南棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの時点でご家族様の不安・疑問・要望をお聞きし利用者の支援が円滑にいくよう配慮している。個別援助計画・広報などで利用者の状況を報告し信頼関係がもてるよう工夫している。		
17		○初期対応の見極めと支援サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と思われるサービスは他職種とも連携を取り、利用者の状況とサービス内容(フットケア・訪問美容等)をご家族様へ説明し情報提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と掃除や洗濯・調理の手伝いをしていただき、互いが共に生活する意識を大切にしている。 テーブル拭きではじゃんけんでのその時の担当者を決めて笑いあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や家族との外出で心が安定する様子をお伝えし家族との絆を大切にしている。ケアプラン・モニタリング・広報で園での生活を紹介し、共に情報共有している。些細なことでも情報交換をし共に支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策をしながら、馴染みの美容室や墓参りなど、家族の協力を得ながらこれまでの生活の中で行われてきたことが継続できるよう支援している。 今年のご家族様対応で自宅外出した方や墓参りに行った利用者様がいたり、通院帰りに自宅を確認し思い出話に花を咲かせる利用者様もいた。	以前は馴染みの美容室に出かけていた利用者もいたが、現在は訪問美容室を利用している。開設時から施設を訪問していることもあり、利用者も美容師との会話を楽しみにしている。また、家族の協力を得て、病院受診の後に自宅に寄って過ごしたり、墓参りに出かけてくるなど、本人が大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格を考慮し関係がうまく作れるように声掛けしたり、同様の趣向を見て一緒に過ごす時間を意識的に作って支援している。価値観や考え方の違う一人の人であることを忘れず、一人の時間も大事にしつつ共同生活の良さも感じて頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	積極的に連絡を取ることはないが、入居時の写真が欲しいとの要望にお応えしたり、退去後の利用者様の状況について報告頂いたり改めてお礼をいただくことがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いや意向を話せる方については、可能な限り希望に沿えるよう支援している。(お菓子の提供、外気浴の機会、入浴等)思いを伝えることが難しい方は家族様から本人の趣向をお聞きしたり、試行錯誤しながら把握に努めている。	本人の意向に合わせて、好みのおやつを食べられるよう配慮したり、お風呂の順番を工夫したりなど、それまでの暮らし方の希望に沿えるよう支援に努めている。言葉に表すことが難しい利用者については、入居前に家族から聞き取りを行い、本人の意向を汲むようにしている他、本人の「やらない」という意思表示を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の基礎情報を大切にしている。日常の会話からも生活歴を汲み取り、ご家族様からの情報も職員間で共有・周知統一した支援を提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを大切にしている。不安になる要因や時間帯を職員間で共有しつつ穏やかな生活が保てるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月毎や、状況の変化があった場合はその都度書面でのケース会議やユニット会議を行い、ケアプラン・モニタリングを郵送している。家族様の面会時にご意見・ご意向を伺いプランに反映できるよう努力している。プランはご家族様の了承を得て実行している。	入居時には、計画作成担当者が本人や家族の意向を聞き、ケアプランを暫定的に作成している。並行して、職員は新入居者用の記録ファイルと生活日誌に気づいた点等を記録し、ケアプランに反映させている。本人の変化については、日々申し送りノートに記載し、職員間で共有することに努めており、半年ごとに記録の他、家族や職員から聞き取りを行いプランの見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・個別生活日誌で日々の生活の様子を記録し情報を共有、ケース会議で検討しプランの見直しをしている。日常的に申し送りノートを活用、朝の申し送りで伝達し情報の共有に努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム なの花 (南棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況も視野に置き、現状を把握し事業所が出来ることを柔軟に対応している。必要があれば市役所、地域包括支援センター、協力医にも相談し必要な情報を提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策で外出の機会が減っている。中でも近所のお餅屋、花屋、産直などへの買い物は状況を見ながら継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される場合は協力医に訪問診療を依頼している。ご家族様が遠方で主治医継続する場合は施設職員が通院対応している。歯科は歯科協力医による訪問診療を受けている。	訪問診療を利用している利用者と、家族同行でかかりつけ医に受診している利用者が約半数ずつである。一部、家族が遠方のため同行が難しい利用者については職員が通院対応を行なっている。受診の際には、利用者の状態を口頭もしくは書面にして家族へ伝えている。家族から報告を受けた受診結果は、生活日誌に記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医受診している利用者の症状の変化などは、協力医の看護職に報告・相談している。また系列施設に看護師が勤務しており、症状や対応など相談し受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院担当者やご家族様と連携を取り必要な物を届けたり、必要であれば訪問し本人の状態確認をするなど協力体制を取り早期退院に向け支援している。退院後は協力医・主治医に報告し症状の変化に配慮している。またサマリーを活用し疑問・不安などは病院へ相談し指導を受ける等連携を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に指針が記載されており入居時に説明している。医師が終末期と判断したとき本人の意思を最大限に尊重し、対応可能な範囲を含め担当者会議を行い本人に一番良い方向を検討していく。 また終末期における対応について早い段階で家族の意向を把握し方向性を定め連携を取りながら支援している。	重要事項説明書に重度化や看取りに関する指針が示され、入居の際に説明している。食事が摂れなくなるような重度化の場合や医療が継続して必要になる場合、あるいは看取りが近づいてきたと判断される場合には、事前に終末期に向けた意向を家族に確認し、必要に応じて病院、施設等への入院、入所を支援している。事業所内には家族付き添い用の部屋も設けているが、現在まで事業所では見取りの経験はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設のマニュアルを作成、見えるところに掲示し職員間で共有している。事故発生時の初期連絡手順を周知し早期対応できるよう努めている。 またAED講習や心肺蘇生法などの講習を行い聞き管理意識を高めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	盛岡南消防署仙北出張所に報告し年2回の避難訓練を行っている。自然災害時における本社からの応援部隊・避難場所・避難経路などマニュアルを作成、水害対策訓練は毎年10月に行っている。 防災備品を備え自家発電を設置している。	避難訓練は、夜間想定火災訓練と水害対策訓練の2回実施している。6月の夜間想定訓練は、特に新入職員を対象に通報や初期消火から利用者誘導の手順まで確認している。ハザードマップでは水害警戒区域に指定されていることから、10月には本社応援のもと車両にて二次避難所の同系列の施設への移送訓練を実施している。	近隣はアパートが多く、地域住民の協力を得ることが難しいという課題がありますが、いざという時のために、運営推進委員を通じて、あるいは町内会回覧板を活用して事業所に関心を持ってもらうような働きかけを行い、事業所についての理解を促すことが期待されます。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心やプライドに配慮しトイレ介助時はドアを閉めて対応。排泄の有無に関しては職員間のみ分かる言葉を使用し情報共有している。	本人の羞恥心に配慮し、トイレ誘導の際には「ちょっと歩きましょうか」のような声掛けの仕方を工夫している。また、他の利用者に気づかれないように、特定の用語を用いて職員間で利用者の排泄に関する情報を共有し、利用者のプライバシーに配慮するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から気軽に会話できる雰囲気作りに気を配っている。利用者との会話の中から希望・要望を汲み取り、職員同士で情報共有し買い物やドライブなどの行事に繋がったり、ご家族様と連携を取り対応している。自己表現が難しい利用者には言動から意思を汲み取り自己決定できるように働きかけている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム なの花 (南棟)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶の時間など、ある程度の目安となる時間は決めている。一人ひとりの希望やペースに合わせた対応が出来るよう、業務優先にならないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回訪問美容を利用し、散髪や毛染めをしている。洋服は季節にあった洋服を選んでいただけよう声掛けしている。爪切り・耳掃除は定期的に行っている。 起床時は声掛けで整容していただき、化粧水を使ったり化粧をする人もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養管理ソフト使用し1年分の献立が出来ている。そのまま提供するだけでなく、利用者様の希望も取り入れメニュー変更している。 個人の好き嫌いを把握し、味付けや盛り付けを工夫している。山菜や食用菊の下処理から会話が弾んだり、毎年の梅漬けや干し柿作りが恒例となっている。	本社から栄養管理ソフトによる1年間分の献立表が示され、外注業者より食材を配達してもらっている。昼、夕食は専任の職員が調理しており、差し入れや畑で収穫した材料を取り入れて適宜メニューを変えて提供している。山菜の下処理や梅漬け、干し柿など、利用者とともに楽しみながら季節の味を取り入れている。利用者は自身の希望に沿って食事の準備や片付けなどを行なっている。暑さが続いた今年、おやつにカットフルーツを用いて自分で盛り付けるお好みパフェづくりを試み、大変好評であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食後記録している。 旬の食材で栄養バランスのとれたメニューを提供している。また主治医・協力医による血液検査から栄養状態・脱水のリスクを把握し食事に関するアドバイスを頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けや仕上げ磨きを行ったり、施設提供のうがい液を使用しうがいしている。 義歯は夜間、義歯洗浄液につけ清潔保持に努め、義歯洗浄ケースと歯磨きコップは毎日洗浄・消毒している。歯科協力医による定期的な歯科検診を受けている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム なの花 (南棟)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ排泄パターンを把握している。 定時のトイレの声掛けや誘導を行ったり、羞恥心に配慮した排便確認を行っている。 ホットタオルや陰部洗浄を行い清潔保持・感染症防止に努めている。	見守りが必要なものの、排泄が自立している利用者は3名である。日中は、リハビリパンツを使用している利用者も含め、全員がトイレを使用して排泄している。夜間においても定時にトイレ誘導し、オムツの使用はしていない。排泄チェック表を作成し、一人一人の排泄パターンを確認し、水分摂取やマッサージなどの便秘予防や服薬調整などの対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では繊維質の物を多く提供している。毎日のカフェオレや水分補給、時期は限られるが施設で採れた無花果を提供することもある。運動では廊下歩行運動を行っている。 排泄チェック表をつけており、便秘症の方は医師の処方により整腸剤や下剤を服用し排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている	入浴は毎日行っており、1日3~4人入浴している。 ユニット毎に入浴チェック表があり順番で声をかけている。気分ではない日は別の日にしたり、希望される方は入浴できるよう調整し対応している。また一番風呂が好きの方は最初に、ぬるめが好きの方は後の法など配慮をしている。	入浴は日曜以外は毎日実施しており、入浴チェック表を作成し、順番に入浴できるよう声掛けをしている。利用者が入浴を希望しないときには、別の日に振替えるなど柔軟に対応している。一番風呂を希望する利用者には、最初に入れるよう調整したり、入浴に拒否を示す利用者に対しては、声掛けを工夫するなど個々に沿った支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調・希望に合わせ、起床・就寝・休息ができるように支援している。寝具の好みなどもなるべく希望に沿うようにし、日中の活動も取り入れながら夜はよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の病状を把握し処方変更した場合はお薬チェック表にその都度記入し職員が把握できるようにしている。処方箋は鍵のついたキャビネットに保管し管理者が配薬、夜勤者と遅番が確認し間違いがないようにしている。服薬介助時は本人に印字を見て頂き、職員が音読して内服確認している。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム なの花 (南棟)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割としてのテーブル拭き・洗濯たたみなどできることをして頂いたり、新聞たたみやゴマすり、団子づくりなどそれぞれの得意分野を活かす支援をしている。 カラオケがあり、歌ったり音楽体操をしたり日常で楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の産直やお餅屋さんへの買い物、気候のよい季節は玄関先のベンチで外気浴や仙北北公園への散歩が日課となっている。 行事の花見・紅葉ドライブや、職員の果樹園でのりんご狩りは恒例となっており今年も計画している。	近隣に商店があり、去年は徒歩で出かけられていた利用者も最近は歩行が難しくなってきたため、近くの公園への散歩が日課となっている。季節の景色を楽しめるよう春には美術館へ花見に、秋には御所湖へドライブしている。恒例のりんご狩りは、今年は寒さのため利用者は参加できなかったが、収穫したりんごはおやつにして利用者に提供している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様によってはご家族と金銭管理について相談し、決まった金額を所持・管理している。使用する際は職員が見守り・声掛けしながらご自身で使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身の携帯電話をもっている利用者には電池が切れないよう充電したり、使い方を説明している。 手紙が届いた時は職員が内容の説明をしたり、電話をつないで対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く天窓から太陽が射し込み白い壁が一層広い空間を生み出している。数か所に飾られた岩手山のパネルは広大な自然を感じさせている。 全館パネルヒーターを設置し廊下とホールに設置したエアコンで冬は暖かく、夏は涼しく温度調整をしている。また、季節に応じた装飾をすることで季節を感じられるようにしている。	二つのユニットが食堂兼ホールでつながっており、ゆったりと広さが感じられる。天井が高く、天窓から採光しているため明るい雰囲気を感じられる。その天窓からの夏の強い直射日光の対策として、遮光シートを貼り付けて対応している。また、感染症対策のため、柱上部にガラスをはめ込み、感染症が発生した際には蔓延防止のためビニールカーテンでスペースを区切っている。壁面には岩手山の写真パネルを設置し、加えて利用者と共に作成した季節の装飾を飾り、居心地よく過ごすことができるよう配慮している。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム なの花 (南棟)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットを自由に行き来し気分転換している。気の合う利用者同士で談笑したり、手作業を楽しんでいる。居室ではテレビを見たり本を読んだり自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットとチェスト、電動ベッドを備えつけている。本人・ご家族の希望で使い慣れた家具や椅子、テレビなどを設置している方もいる。壁に家族との写真や本人の塗り絵、クラフトを飾り満足して頂いている。ご家族様からのカードやプレゼント、お花など飾り自宅と同じように過ごして頂けるよう工夫している。	居室のドアには目印として、名前や顔写真、クラフト品等が飾られている。クローゼットとチェスト、電動ベッドが備えつけてあり、使い慣れた椅子などの家具を自宅から持ち込んでいる利用者もいる。位牌の持ち込みも可能だが、現在持参している利用者はいない。家族の写真や本人が作成した塗り絵などの作品を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは絵や見やすい貼り紙で表示をしている。洗面所はドアがなくセンサーで電気がつくため分かりやすく、個人の洗面台は名前を明記している。 居室ドアには本人と家族の写真やクラフトを張ることで目印になるようにしており、不安なく過ごせるよう工夫している。		